

授業科目 がん看護学特論Ⅲ		科目概要・形式 2 単位 30 時間(15 コマ) 講義科目	配当年次 博士前期 1 年次 前期開講	オンライン参加 可・不可 「下記 6, 7 参照」
科目責任者	鳴井ひろみ			
担 当 者	鳴井ひろみ、棟方正樹（非常勤）、鎌滝章央（非常勤）、松坂方士（非常勤）、伊東健（非常勤）、真里谷靖（非常勤）、長谷川善枝（非常勤）			
1. 科目のねらい・目標				
<ねらい> がんの分子生物学、遺伝学を含む病態生理学全般について学び、最新の診断、治療について学ぶことで、高度な臨床判断とがん看護実践に必要な専門知識を修得する。 <目標> 1) がんの要因・発生・病態生理について、分子生物学、免疫学、遺伝学、疫学の観点から理解し、知識を深めることができる。 2) がん組織の病理学的・臨床的特徴と症状との関連および診断と治療について理解し、高度な看護実践を展開する上での基礎的知識を修得する。				
2. 授業計画・内容				
1 回 : がん医療の動向 (鳴井) 1) がん医療の動向とがん看護専門看護師の役割 2 回～5 回 : がんの分子生物学 (鎌滝) 1) がんの形態・分類 2) がんの発生・原因 3) がん遺伝子とがん抑制遺伝子 4) 発がんの増殖、がんの進展と転移 6 回～7 回 : がんと免疫 (伊東) 1) 腫瘍に対する免疫応答 2) がんによる免疫抑制 8 回～9 回 : 腫瘍遺伝学 (長谷川) 1) 腫瘍遺伝学 2) 遺伝子診断 10 回～11 回: がんの臨床医学 (棟方) 1) 診断（病理診断、画像診断）と治療 2) 集学的治療 12 回～13 回: がんと疫学 (松坂) 1) がんの疫学 2) 発生要因とがん予防医療の動向と課題 14 回 : 放射線被曝と健康への影響 (真里谷) 15 回 : まとめ (鳴井)				
3. 教科書、参考書				
(教科書) 新版 放射線生物学 窪田宜夫著 医療科学社 2015 年 (ISBN 978-4860034658) 他、講義の中で適宜紹介する。				
4. 成績評価方法				
講義およびゼミへの取り組み状況 70%、レポート 30%で総合的に評価する。				
5. 受講要件				
がん看護専門看護師コースの学生は必修				
6. 社会人学生に対する配慮				
オンライン授業等は相談があれば個別に対応する。				
7. その他				
・講義内容について事前に学習して臨むこと。 ・状況に応じて Webex または Zoom を用いた遠隔講義を実施する。オンデマンドの実施はしない。				

